

インタビューの記録から

* 「生徒が将来幸福になってほしいと願い、その基礎になる大事な時期にかかわっているという責任も強く感じています。」

* 「社会に出た時に自分で考え、自分で対応できるような人になってほしいので、教師からの一方的な呼びかけでなく、考えさせるステップを踏んでいます。」

* 「学年集会等でソーシャルスキルトレーニングも取り入れました。生徒同士でも友だちにどう接していったらよいのか、その手段に困っていて、誤解を招く言動をしていることに気付いたようです。生徒全員が「役に立った」という感想を書いてくれました。」

社会に出た時、対応できる力を身に付けさせたい

そこで

個と集団での指導を見極めて、相手の気持ちや自分の気持ちと向き合って今どういう力を身に付ける必要があるか気付かせていきましょう

たとえば

指導形態別の指導内容

小集団指導において

- ・多くの児童、生徒に共通している問題の時は、自分のこととして考えさせる。
 - ・一人一人が自分を生かして力を合わせることが大切という共通認識をさせる。
 - ・友だちへの接し方について学ぶ。
- (ソーシャルスキルトレーニング等)
- ・必要に応じて保護者会や学年通信等で家庭での支援や指導を求める。

個別指導において

- ・誤解を招くような行動をとった場合は、相手の立場に立たせることで自分の行動を振り返らせる。
- ・規範意識を育ててほしい時は、その時の気持ちや言動を振り返らせ、時と場合に応じた言動を学ばせる。
- ・個人的な問題で支援が必要な時は、話を受け止めサポートしていく。
- ・保護者との連携をとる。

事実を確認し、早めに対応しています

児童生徒に対して

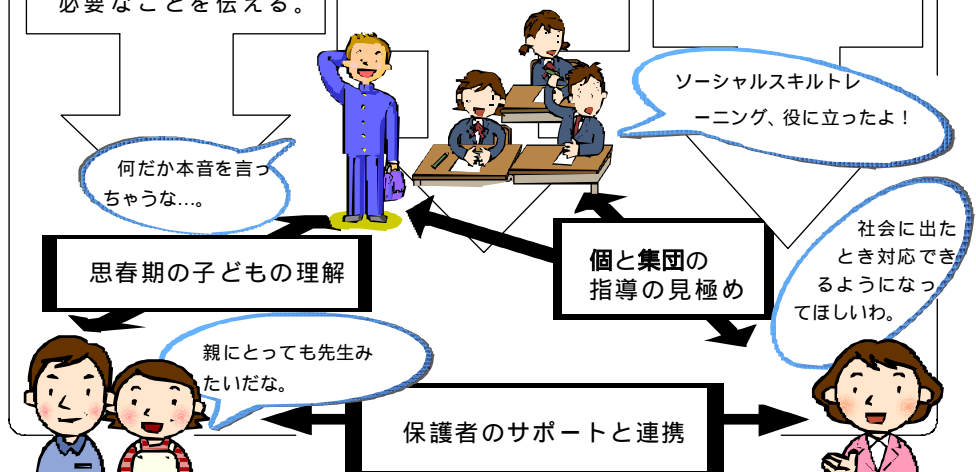
- ・自分の利己的な考えによる言動でなく、集団の中の自分を意識させる。
- ・一人一人が気持ちよく学校生活を送るためには、一人一人のちょっとした気遣いや努力が必要なことを伝える。

保護者に対して

- ・思春期の頃の微妙な気持ちを教員とともに一緒に受け入れながら指導していくことを伝える。

職員に対して

- ・発達段階や実態を考慮し、子どもに寄り添う。
- ・集団としての規範意識と個へのサポートの両面からのアプローチをする。



教頭

教務主任

学年主任

研修主任